

洋書輸入協会会報

VOL. 18
NO. 3

(通巻203号) 昭和59年3月

理事会報告

1月26日(木)

(一) 新年懇親会

文化厚生委員会から、1月9日(月)夜東京プリンスホテルで開催された新年懇親会には、78社219名の出席者があったことが報告された。

(二) ドイツ祭

Deutsches Festival Japan '84(ドイツ祭'84)の催しのひとつとして開催されるドイツ書籍展に協会として協力するのに伴い、ポスター、プログラムの配布について打合せた。

(三) 外貨預金

大蔵省からの連絡にもとづき、山川隆雄氏(USACO)栗原光輝氏(洋販)および柴田三夫事務局長などが近く大蔵省を訪ねて、協会としての要望を伝えることとなった。

(四) 海賊版

Walter de Gruyter & Co.から要請があった海賊版については、本会報に掲載して会員に周知させることとし、その旨同社へ連絡することとなった。

(五) 外国為替講座

1月24日(火)丸善において開催されたこの講座には、約二十社から参加者があったことが報告され、要旨を本会報に掲載することとなった。

(六) 「会報」の合本

本会報は既に通算200号をこえたので、101号から200号までを合本とすることが承認された。

(七) 雑誌の通関

1月18日(木)雑誌委員会がひらかれ、雑誌の通関について検討された旨報告された。

(八) その他

2月9日(木)

(一) 12月分・1月分収支計算・予算対比表検討
事務局長の報告どおり承認された。

(二) コピー問題

討論ののち、委員会を3月に開催することとした。

(三) その他

ドイツ書籍展についての協議

Deutsches Festival Japan '84(ドイツ祭'84)の行事のひとつとして図書展示会(書籍・雑誌約1,300点、170社参加予定、テーマは、科学、技術、芸術、文学)が4月23日(火)から5月6日(日)まで東京晴海国際見本市会場でひらかれるが、その準備のため、Ausstellungs-und Messe-GmbH des Börsenverein des Deutschen BuchhandelsのDirektorであるPeter Weidhaas氏がこのほど来日された。

同氏の申出により、理事会と同氏との協議が1月24日(木)赤坂のドイツ文化会館(Goethe-Institut)でおこなわれ、協会としてはこの図書展に協力することとなった。

理事会報告..... 1	Book Review No.97 9	チャールズ E・タトル氏
昭和58年1—12月洋書輸入	(株)フランス図書 岡見氏	勲三等瑞宝章を受章.....11
通関統計とその分析..... 2	フランス国家功労章を受章..... 9	お知らせ.....11
84年の国際経情と為替相場動向... 7	会報に掲載された	来日外人名簿.....11
海外ニュース..... 8	八木佐吉氏著作目録.....10	総代理店ご案内.....11
海賊版についてお願い..... 8		広告.....12

昭和58年1～12月洋書輸入通関統計とその分析

相 良 廣 明

大蔵省関税局から、昭和58年日本貿易統計の輸入品別・国別表が発表されたので、洋書関係の数字をピックアップして分析を試みたい。

1. 書籍・雑誌の通関価額及び数量

(単位 百万円)

(表1) 昭和58年1～12月書籍・雑誌輸入通関統計表 (価額及び数量)

商品名	s.57. 1～12月		s.58. 1～12月		数 量 前年比	価 額 前年比
	数 量	価 額	数 量	価 額		
書 籍	千冊 14,734	百万円 21,285	千冊 13,794	百万円 20,028	% 94	% 94
雑 誌	7,160	11,052	7,734	10,921	108	99
合 計	21,894	32,337	21,528	30,949	98	96

歴 年	書 籍			雑 誌			計		
	額	前年比	指数	額	前年比	指数	額	前年比	指数
s.49	16,843	143	100	6,818	117	100	23,661	135	100
50	17,234	102	102	9,805	144	144	27,039	114	114
51	20,035	116	119	6,151	63	90	26,186	97	111
52	23,470	117	139	8,260	134	121	31,730	121	134
53	23,023	98	137	8,650	105	127	31,673	100	134
54	21,982	95	131	9,333	108	137	31,315	99	132
55	23,018	105	137	11,049	118	162	34,067	109	144
56	19,071	83	113	8,899	81	131	27,970	82	118
57	21,285	112	126	11,052	124	162	32,337	116	137
58	20,028	94	119	10,921	99	160	30,949	96	131

(注1) 書籍は仮とじのもの、パンフレット及びリーフレットを含むが、マイクロフィルム類、新聞、絵本、楽譜、カレンダー、絵葉書などは含まない。

(注2) 価格はCIF又はC&Fである。(以下同じ)

(注3) 昭和57年6月までは、小額貨物は10万円以下含まれずとなっていたが、7月より20万円以下含まれずに変更されている。

(注4) 書籍は、現品入荷月の翌月の15日までに届出が行われるため、入荷より平均1カ月の遅れで計上されている。

(注5) 雑誌は、最終号が到着したと認められる時点において届出が行われるため、初号入荷時よりも約一年遅れで計上されている。

(表4) 昭和54年～58年の上・下期毎 書籍・雑誌の輸入通関統計比較表(価額)

(単位 百万円)

期 間	書 籍	前 年 同期比	雑 誌	前 年 同期比	計	前 年 同期比
s.54. 1～6月	12,062	101%	5,846	110%	17,908	104%
7～12月	9,920	90	3,487	105	13,407	93
計	2,1982	95	9,333	108	31,315	99
s.55. 1～6月	12,867	107	7,252	124	20,119	112
7～12月	10,151	102	3,797	109	13,948	104
計	23,018	105	11,049	118	34,067	109
s.56. 1～6月	9,578	74	6,329	87	15,907	79
7～12月	9,493	94	2,570	68	12,063	86
計	19,071	83	8,899	81	27,970	82
s.57. 1～6月	10,969	115	8,293	131	19,262	121
7～12月	10,316	109	2,759	107	13,075	108
計	21,285	112	11,052	124	32,337	116
s.58. 1～6月	10,324	94	8,150	98	18,474	96
7～12月	9,704	94	2,771	100	12,475	95
計	20,028	94	10,921	99	30,949	96

(表2) 昭和54～58年書籍・雑誌単価推移表

商品名	s54	s55	s56	s57	s58	前年比
書 籍	円 1,145	円 1,345	円 1,117	円 1,445	円 1,452	% 100
雑 誌	975	1,351	1,254	1,544	1,412	91
計	1,089	1,347	1,158	1,477	1,438	97

(表3) 昭和49～58年書籍・雑誌輸入通関統計推移表(価額)

(表5) 昭和49—58年書籍・雑誌輸入通関統計推移表(数量)

(単位 千冊)

歴 年	書 籍			雑 誌			計		
	数 量	前年比	指数	数 量	前年比	指数	数 量	前年比	指数
		%			%			%	
54	19,194	95	109	9,570	101	105	28,764	97	107
55	17,118	89	97	8,179	85	90	25,297	88	94
56	17,067	100	97	7,095	87	78	24,162	96	90
57	14,734	86	83	7,160	101	79	21,894	91	82
58	13,794	94	78	7,734	108	85	21,528	98	80

2. 分 析

2.1 輸入価額4%減

s58は、書籍6%減、雑誌1%減、計で4%減少となっている。s57に折角持ち直した洋書輸入価額も、またまた310億円を下廻る数字に落ちこみ、洋書輸入業界が苦しんでいるさまを如実に示している。

この最大の原因は、文教予算のマイナス・シーリングと外貨安・円高にあるが、企業需要及び個人購入が今一つ伸びなかったことも影響している。

2.2 外貨安・円高

s58は、主要6カ国の年間為替相場の加重平均で、概算約8%の外貨安・円高となっている。

このことは、外貨建ての輸入額が前年と同額であれば、円価額は8%減となることを意味する。結果的にs58は、円価額で4%の減であるから、円高=値下り分の半分は需要増となっている訳だが、逆に言うと同様の洋書の場合は値下り分の半分しか需要が増えず、半分は売上減となって現われるという特殊性を示している。

外貨建てで主要6カ国を見ると、概算の加重平均で約3% (表14参照) の輸入増となっている。従って洋書のお客様にとっては、s58は外貨ベースで見ると前年をやや上回る洋書を購入されたこととなるが、原価値上り分を差し引くと、実質的にはやはりダウンしているといわざるを得ない。

2.3 書籍と雑誌の比較

書籍と雑誌を比較すると、文教予算がマイナス・シーリングとなった場合には、どうしても学術雑誌の継続・更新に重点が置かれ、学術書籍の方にしわ寄せが行くことが、この数字で示されている。

2.4 輸出との比較

過去10年間の書籍・雑誌の輸出入を比較すると、合計で輸入が10年前の1.31倍となっているのに対し、輸出は3.4倍となっていて、中でも書籍は同額となってしまっている。勿論学術関係に限ればこれ程の成長率の差はないが、この現象からは、いろいろな教訓が汲み取れよう。

2.5 数量について

数量には不確実な要素が多いので、参考程度にとどめておきたい。

3. 主要国別通関実績

(表6) 昭和58年1～12月主要国別書籍・雑誌別輸入通関統計表(価額)

(単位 百万円)

国 名	書 籍			雑 誌			合 計		
	価 額	前年比	構成比	価 額	前年比	構成比	価 額	前年比	構成比
		%	%		%	%		%	%
米	9,224	92	46	5,378	99	49	14,602	95	47
英	3,590	87	18	1,235	70	12	4,825	82	16
西独	2,916	95	15	935	101	9	3,851	96	12
仏	589	97	3	446	98	4	1,035	98	3
スイス	515	87	2	564	158	5	1,079	113	4
蘭	935	96	5	1,330	106	12	2,265	102	7
伊	259	202	1	539	104	5	798	124	3
ソ連	103	149	1	121	133	1	224	140	1
その他	1,897	112	9	373	143	3	2,270	116	7
計	20,028	94	100	10,921	99	100	30,949	96	100

(表7) 米国 昭和54～58年輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

年次	書 籍	前年比	構成比	雑 誌	前年比	構成比	計	前年比	構成比
		%	%		%	%		%	%
s54	9,948	73	45	4,187	106	45	14,135	80	45
55	9,271	93	40	5,144	123	47	14,415	102	42
56	8,691	94	46	4,445	86	50	13,136	91	47
57	10,010	115	47	5,420	122	49	15,430	117	48
58	9,224	92	46	5,378	99	49	14,602	95	47

(表8) 英国 昭和54～58年輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

年次	書 籍	前年比	構成比	雑 誌	前年比	構成比	計	前年比	構成比
s54	3,689	140%	17%	1,725	135%	19%	5,414	138%	17%
55	5,094	138	22	1,462	85	13	6,556	121	19
56	4,125	81	22	1,446	99	16	5,571	85	20
57	4,144	100	19	1,770	122	16	5,914	106	18
58	3,590	87	18	1,235	70	12	4,825	82	16

(表11) スイス 昭和54～58年輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

年次	書 籍	前年比	構成比	雑 誌	前年比	構成比	計	前年比	構成比
s54	830	127%	4%	322	70%	3%	1,152	104%	4%
55	772	93	4	375	116	3	1,147	100	3
56	660	85	3	239	64	3	899	78	3
57	594	90	3	357	149	3	951	106	3
58	515	87	2	564	158	5	1,079	113	4

(表9) 西独 昭和54～58年輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

年次	書 籍	前年比	構成比	雑 誌	前年比	構成比	計	前年比	構成比
s54	2,559	106%	12%	876	92%	9%	3,435	102%	11%
55	3,514	137	15	1,220	139	11	4,734	138	15
56	2,550	73	13	1,024	84	12	3,574	75	13
57	3,068	120	14	928	91	9	3,996	112	12
58	2,916	95	15	935	101	9	3,851	96	12

(表12) オランダ 昭和54年～58年輸入通関統計推移表

(価額)

(単位 百万円)

年次	書 籍	前年比	構成比	雑 誌	前年比	構成比	計	前年比	構成比
s54	769	123%	4%	989	120%	11%	1,758	121%	6%
55	1,111	144	5	1,344	136	12	2,455	140	7
56	672	60	4	769	57	9	1,441	59	5
57	970	144	5	1,254	163	11	2,224	154	7
58	935	96	5	1,330	106	12	2,265	102	7

(表10) フランス 昭和54～58年輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

年次	書 籍	前年比	構成比	雑 誌	前年比	構成比	計	前年比	構成比
s54	739	128%	3%	493	92%	5%	1,232	110%	4%
55	1,372	186	6	604	123	6	1,976	160	6
56	629	46	3	374	62	4	1,003	51	4
57	605	96	3	455	122	4	1,060	106	3
58	589	97	3	446	98	4	1,035	98	3

(表13) 昭和54～58年主要国別書籍・雑誌別価額構成比推移表

国 名	書 籍					雑 誌					計				
	s54	55	56	57	58	s54	55	56	57	58	s54	55	56	57	58
米	45%	40	46	47	46	45%	47	50	49	49	45%	42	47	48	47
英	17	22	22	19	18	19	13	16	16	12	17	19	20	18	16
西独	12	15	13	14	15	9	11	12	9	9	11	15	13	12	12
仏	3	6	3	3	3	5	6	4	4	4	4	6	4	3	3
スイス	4	4	3	3	2	3	3	3	3	5	4	3	3	3	4
蘭	4	5	4	5	5	11	12	9	11	12	6	7	5	7	7
伊	1	1	1	1	1	5	5	4	5	5	2	2	2	2	3
ソ連	0	0	0	0	1	—	0	0	1	1	0	0	0	1	1
その他	14	7	8	8	9	3	3	2	2	3	11	6	6	6	7
計	100%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

4. 主要国の国別分析

4.1 s58の特徴

s58は、米・英・西独・仏・スイス・蘭の主要6カ国のシェアが、前年の91%から3%減少して89%に低下した。これはs54に87%に落ち込んだ時以来の現象である。

4.2 書籍・雑誌別

書籍・雑誌別に見ると、s58は大きな変動がなく落ちついているが、ただスイスの雑誌が2年連続急成長していることが目に付く。スイスのs57の急成長は、s56の落ち込みのカバーで理解出来るが、s58の急成長はどうした訳であろうか。

4.3 米・英・西独・仏の減と為替相場の関係

主要各国ともに円高であったが、米国が年間平均相場概算で4.6%と小幅であったのに対し、ヨーロッパ通貨はかなり大幅であったため、この4カ国からの輸入円価額が低下している。ことに英国は18%減と大幅であったが、英ポンドの年間平均相場が17%も円高・ポンド安になっていることを勘案すれば、英国側から見る限りほぼ前年並みといって良い。フランスに至っては、英国と同じく17%もフラン安となっていながら、円価では2%しか減少していないので、フランス側から見ると18%の輸出増となっている。

主要6カ国からの輸入円価額を、その国の年間平均円相場で割った全くの概算ではあるが、外貨建てでの前年比を算出してみると次表の通り。

(表14) 昭和57～58年、主要6カ国の外貨建てによる通関価額前年比(概算)

国 別	書 籍		雑 誌		計	
	s57	s58	s57	s58	s57	s58
米	102%	97%	108%	104%	104%	99%
英	102	105	125	84	109	98
西 独	115	105	86	111	107	106
仏	103	118	130	119	113	118
スイス	81	94	137	171	97	123
蘭	139	109	155	118	147	114
加重平均					109	103

5. 主要国以外の状況

(表15) 昭和58. 1～12月主要国以外で、輸入価額が書籍・雑誌各1,000万円以上となっている国の一覧表(価額)

(単位 百万円)				
国 名	書 籍	雑 誌	合 計	前年比
韓 国	473		473	%
N . K O R E A	128	19	147	188
中 国	156	95	251	196
台 湾	251		251	86
香 港	391	111	502	112
シンガポール	89	10	99	105
インド	22		22	85
デンマーク	10	50	60	55
スウェーデン		16	16	133
アイルランド		12	12	64
ベルギー	19		19	92
東 ド イ ツ	58	11	69	44
ス ペ イ ン	39		39	101
オーストリア	70	14	84	126
カナダ	20		20	114
オーストラリア	11		11	87
ニュージーランド	79		79	61
計 17 カ 国	1,816	338	2,154	1,952
				114

上記表は、s57と比較するとチェコとメキシコが抜け、ニュージーランドが加わっているが、大勢として変化がない。

韓国・中国・台湾・シンガポールの東アジア5カ国合計では、s56にこそ7%減となったが、s57は19%増、s58は13%増とますます交流が深まり、更にN. KOREAの大幅輸入増が加わってきている。なお、それらの国の中には、日本からの印刷製本外注の逆輸入、及び香港経由の英国書の輸入も含まれている。

6. 洋書関連商品の輸入通関価額とその分析

(表16) 昭和54～58年書籍・雑誌に準ずるものの輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

品 名	s.54	s.55	s.56	s.57	s.58	前年比	54：58比
絵 本	268	283	206	385	537	139%	200%
新 聞	157	193	234	207	209	101	133
楽 譜	668	596	649	738	832	113	125
地図・海図	848	748	709	822	713	87	84
印刷・書画	413	471	465	696	616	89	149
その他の印刷物	3,154	3,270	4,489	5,637	4,410	78	140
計	5,508	5,561	6,752	8,485	7,317	86	133

(表17) 昭和54～58年その他の関連商品の輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

品 名	s.54	s.55	s.56	s.57	s.58	前年比	54：58比
地 球 儀	428	496	402	328	204	62%	48%
絵 葉 書 等	95	143	204	248	408	165	429
カレンダー	603	488	533	653	557	85	92
写 真	380	471	465	459	291	63	77
写 真 用フィルム等	603	722	674	904	722	80	120
計	2,109	2,320	2,278	2,592	2,182	84	103

[注] 1. ○絵本は、幼児用の絵本及び習画本。

○楽譜は、手書きのもの、絵入りのもの及び製本したものを含む。

○地図・海図は、その他これらに類する地理学用・気象学用又は天文学用の図を含み、印刷したものである。

○その他の印刷物には、広告用印刷物（ポスターを含む）、広告・宣伝を目的とする物、各種の貿易用カタログ（書類楽譜の出版者のリスト、芸術作品のカタログを含む）、観光案内、印刷されたカレンダーバック、紙又は板紙以外の材料に印刷されたカレンダー等々が含まれている。

[注] 2. ○地球儀は、天球儀を含み、印刷したものである。

○絵葉書は、クリスマスカードその他の絵入りカードを含み、印刷したものである。

○カレンダーは、紙製又は板紙製のもの。

○写真用フィルム(Code No.37.05-000)は、写真用のプレート及びフィルム（現象したもの）であり、マイクロフィルム・マイクロフィッシュ・スライド等は、これに含まれる。

絵本は2年連続、楽譜は3年連続、絵葉書は5年連続の好調であるが、その他はかんばしくない。地球儀・写真共に3年連続の減少である。

7. 輸出(参考)

書籍・雑誌の輸出は、円高にもかかわらずなおs50年以來成長の連続であり、10年間で3.4倍になっている。

書籍・雑誌計の輸入対輸出の比率は次の通り。

s49 76：24

s54 70：30

s58 54：46

輸出額が輸入額を追い越すのも間近いことであろう。

(表18) 昭和49～58年書籍・雑誌輸出通関統計及び10年間の推移表(価額)

(単位 百万円)

歴 年	書 籍			雑 誌			計		
	価 額	前年比	指数	価 額	前年比	指数	価 額	前年比	指数
s.49	5,875	120%	100	1,772	114%	100	7,647	119%	100
50	5,748	98	103	1,699	96	96	7,447	97	101
51	7,605	132	136	2,128	125	120	9,733	131	132
52	8,163	107	146	2,808	132	158	10,971	113	149
53	9,031	111	161	2,916	104	164	11,947	109	162
54	9,325	103	167	3,955	136	222	13,280	111	180
55	13,889	149	248	4,915	124	276	18,804	142	255
56	16,523	119	295	5,645	115	317	22,168	118	301
57	18,671	113	333	5,900	105	332	24,571	111	333
58	20,623	110	351	5,358	91	302	25,981	106	340

以 上

1月24日 丸善株式会社主催で東京銀行常任参与鳴沢宏英氏の「'84年の国際経済と為替相場動向」と題する講演会が同社会議室で開催されました。協会会員をは

じめ40数名が参加し、質疑をまじえた有意義な催しでした。講演会に参加できなかった会員の方のために同氏の講演要旨を紹介します。

'84年の国際経済と為替相場動向

東京銀行常任参与 鳴沢宏英氏

'83年の為替相場回顧

'83年の相場の特徴は、米ドルが引続き異常ともいえる程強い年であった。それに反して欧州通貨は暴落の一途をたどり、両者の間にあって円は変動幅の少ない年であった。

[1] 米ドルが強かった要因は何か

①政治・軍事面 —— 国際的な環境が有事に強いドルというドル選好を生み、米国への資本流入が続いた。

②経済面 —— 投資先としての米国経済環境が好転した。インフレ鎮静、米国景気回復、企業業績向上、株高騰、等。

③米国の高金利 —— 金利が高いから資金が流入したのではなく、前二項目に加えるに流入先の米ドル金利が高いという投資メリットがあった。

[2] 欧州通貨暴落の要因は何か

①政治・軍事面 —— 中距離核配備問題による安全に対する危惧から西独マルクへの投資魅力減退、資本流出が直接的背景である。

②経済面 —— 欧州経済の落込みが大きく、日米と比較し見劣りがする。

③経済政策での対応面 —— 欧州自身に通貨下落を容認する姿勢があった。

[3] 円の安定した要因は何か

①経常収支の大幅黒字と資本収支の大幅赤字が均衡した年であった。

②円と欧州通貨の連動した動きから独立した動きが出てきた。その背景は欧州に比べ経済のパフォーマンスが良く、核配備問題の焦点が欧州にあった点、円安批判に対応し当局が円安となる政策をとらないであろうとい

う心理的な壁が、円安への歯止めとなった。

'84年の為替相場

'83年の相場を動かした要因を吟味していくと、本年の相場動向を読みとることができる。

米ドルの強さはどうなるか

①政治・軍事面 —— ソ連はレーガン再選を好まない。大統領選前にレーガン有利となるような材料は提供しないだろうから、東西関係は現状と大きく変わらないであろう。従って有事に強いドルは続くであろう。

②経済面 —— 堅調なドルを支えた米国経済については見通しが分かれるが、いつまでも順調な景気回復が続くとは思われない。FRBは財政面から景気への支えがない以上、景気が失速してくれば金融緩和を行なって下支えを行なうから、この場合はドル高修正圧力となる。

③高金利 —— 途上国累積債務問題から、これ以上の高金利は許容できない。また財政赤字と民間資金需要から、これ以上金利が下がることもないといった、高止り状態が続こう。

以上のように米ドルを支えた要因のうち二つがぐらつき始め、それ以上の新たな問題が生じている。

④米貿易収支の大幅赤字 —— 貿易収支で800~1,000億ドル、経常収支で400~600億ドルの赤字が見込まれている。経常収支の大幅赤字ということは米国の短期債務が累増していることを意味しており、ドル選好が続く限りにおいてドル売り圧力とはならない。しかし、いつまでもドル選好が続くはずがなく、いつドル売りが発生しても不思議ではない状況になっている。

ドル高修正への引金となる要因は何か。またドルから流出した資金は何に向かうのか。

①米金利低下。すなわち景気にかげりが出る。

②インフレ再燃。今ただちにという要因とはならない。少なくとも問題化するのとは'85年以降のこととなろう。

③大統領選の行方。資本の特性として保守を好む。従って民主党有利となった場合、充分に引金となりえる。

以上のようにドル高修正となりうる引金も、短期債務の累積というドル売り圧力も強まっている。しかし、ドルをきらっていきよにドルから資金が流出するには、マルクを中心とした欧州通貨と円とが一致して受入れ態勢が整っていないからではない。はたして、核配備問題といった東西関係に変化は見込まれず、依然としてマルクを中心とした欧州通貨は弱体化しており、円の側にも今ただちに要因となりうる円高材料がない。従ってドルからの大規模な地殻変動を思わせる資本の流出、大幅なドル修正は起りうるとは思えない。ドル・円で言えば、小幅なドル高修正にとどまろうし、欧州通貨についても現状が安過ぎ、その修正局面はあろうが、余り多くを期待しえない。77年から78年にかけて265円から175円まで動いた円高ドル安と現在の状況は似ているが、当時と決定的に異なる点は欧州通貨は堅調であったし、ドルは高金利ではなかった。また国際的な政治、軍事環境が小康を保ち、有事に強いドルといった状況になかった、比較的安定した期間であった。

〈丸善提供〉

海外ニュース

「米国書籍業界の機械化の動き」

ABA (米国書店連盟) は、書籍の注文を集中的に処理することのできるコンピュータ・システム BOS (Book Ordering Service) を開発し、この1月から試験的なサービスを開始した。現在、この試験サービスに参加しているのは、出版社側では NAL、Holt、St. Martin 及び Macmillan の4社、書店側では25社である。ABA では、7月までに、すべての ABA 加盟店に当サービスを開放するべく計画を進めている。

BOS は、各書店に設置された端末によって注文及び会計処理を可能にするシステムであり、書店及び出版社両者の事務作業を大きく合理化するものとして期待されている。各端末から入力された注文データは、PCS Data

Processing 社の中央コンピュータで出版社毎に振り分けられ、それぞれオンライン、磁気テープ等によって出版社に送られる。端末のリース料金は月間80ドルで、2年後には、そのまま書店の所有物となる。

(BP Report 1984年1月23日号より)

「英国書籍業界の機械化の動き」

ペンギン社は、1月に出版された6点の新刊書について、ISBN のバーコード表示を開始した。しかし、すべての新刊書、重版書及び再版書にバーコードが印刷されるのは3月以降となるため、バーコード付の本が数多く店頭に並ぶまでには、今しばらくの時間を必要としよう。

このバーコードには、ISBN 表示用とは別に5桁のコードが用意されているが、ペンギン社では、海外市場を考慮し、価格表示には用いない方針である。いずれにせよ、ペーパーバック業界の最大手がバーコード表示に踏み切ったことは、他の出版社への波及に拍車をかけるものとして期待されている。

(Bookseller 1984年2月4日号より)

—紀伊國屋書店提供—

海賊版についてのお願い

Walter de Gruyter & Co., Berlin/New York からの連絡によると、同社の下記出版物の海賊版が Yi Shien Publishing Co. (No.3 Lane, 316 Roosevelt Rd., Section 3, Taipei, Taiwan) によって出版されているそうです。

Concise Encyclopedia of Biochemistry

この海賊版をごらんになった方は、ぜひ事務局へ御一報いただきたいと思います。

青木正美著

東京下町古本屋三十年

青木書店発行 ￥2,000

1 昨年(1982年)の秋頃、何の新聞だか忘れたがたまにこの本の紹介を読んだ。通常の取次ルートには乗らない出版物と云う事で、わざわざ神田の「アクセス」まで買い求めに行ったものである。

私は洋書を扱う立場の本屋に違いないが、恐らく本屋の中の本屋は古書店ではないかと思っている者の一人である。著者の青木書店々主、青木正美氏は1933年(昭和8年)生まれというから現在51才になられるわけだが、実際に古本屋を始められたのは昭和28年、20才の時だという。沢山の弟や妹達の中で長男だったせいもあり、家業の自転車修理業を手伝いしながら定時制高校に通い、それも家庭の事情で中退して日給百五十円の工具となって働いていたのだが、その頃お父さんの自転車店の間口3間奥行2間のうち、間口1間を借りて古本屋をする決心をされたそうである。生来文学好きな青年だったので自分の蔵書5~600冊と、お父さんから当時のお金で3万円を貸して貰い独立する事になる。名前も「一間堂」(後に青木書店となる)と命名、友人の助けを借りて開店の運びとなるのだが、いざ開店の時は恥ずかしくて店のカーテンを自分で開ける事が出来ず、友人に開けて貰ったという事だ。お店は堀切の駅の近くなのだが、神田などの古本屋街とは違い、文化的、学術的などの雰囲気とは一寸程遠い下町が背景となっている。

本書は「一古本屋の自分史」とも呼んでいる様に頑張った甲斐あって、30年後の今日一家をなしたわけだが、テーマ毎に「市場」「古書展」「私の蒐集」「店番」「堀り出し物」等々とまとめられている。なかでも「建場廻り」には、今の若い人達がこれだけの辛抱が出来るだろうかと思われる事が、くわしく述べられている。

古書屋をプロらしく成長させるものに「市場」があるのだが、本書の表紙のウラに紹介されている「古本

屋用語集」はその世界で生きて使用されている言葉で、多くの古本屋のベテラン達が使ってきた、何のてらいもない年輪と含蓄が汲み取られ、仲々味わい深い。又その言葉の背景には、火花を散らす真剣勝負の世界も想像出来る。

「蒐集ということなくして古本屋は成り立たない商売である」と著者は述べているが、若い時から、島崎藤村に傾倒し、立場を活かしての初版本、生原稿、書簡等に及ぶ蒐集は相当なものがあるようだ。

「古書業界の未来」の章を読んでみる。ある業界の会報に載せられた、臨川書店の久保田氏の一文を引用している。要約すると「現在日本の諸大学では基本図書の実質が一段落して、量的な需用から多方面に亘る「原資料」の質的需用へと転換してきている。この変化は戦後三十数年という歴史の積み重ねに加えて、研究機関及び研究者の増大に見合った当然の動向と考えられる。この需用の動向にどう応えて行くか、一つは現在の研究の対象が細分化され、かつ多方面に亘っていること、一つは流布の少ない稀少のもの競争が激しいという事である。これは前者はまず何からはじめるかを限定すること、古書業界の激しい競争に対して日々これ勉強と考え、新しい闘志を燃やしていく」という様な事であるが、これを現在の洋書業界に置き換えて見ると色々似通った点が思い当たり、教えられるところがあるのではなかろうか。著者の文章力はかなりなもので、読んでいて実に面白く思わず引き込まれる。それにも増してこれは恐らくご本人の性格が素直なのか、少しも飾らずありのままの自分をさらけ出した「自分史」に親しみと同時に好感さへ憶える。

洋書業界にもこのような内部からの歴史を綴った「自分史」が出ても良い頃ではないかとも思う。

(教文館 K.W.記)

(株)フランス図書代表取締役 岡見純氏、フランス政府より国家功労章を受章

岡見純氏は、昭和59年2月21日にフランス大使館において、駐日フランス大使アンドレ・ロス氏より、

Chevalier de l'Ordre National du Mérite (国家功労章シュバリエ)を受章されました。これは岡見氏の永年にわたる日本におけるフランス書の普及と、日仏文化の交流に努力された功績に対し、授与されたものです。洋書輸入協会会員一同よりお喜び申し上げます。

会報に掲載された八木佐吉氏の著作
目録 (前号からのつづき)

本の本

1. G.D. Painter: W. Caxton—A Quincentenary Biography of England's First Printer. 52-5/11-5/121
2. Guide to Reference Books. 52-6/11-6/122
3. Books in Print(U.S.A.)について 52-7/11-7/123
4. A History of the Oxford University Press. 52-8/11-8/124
5. A History of European Printing. 52-9/11-9/125
6. The Invention of Printing in China and its Spread Westward. 52-10/11-10/126
7. Printing and the Mind of Man, とその邦訳版新刊「西洋をきずいた書物」 52-12/11-12/128
8. あらためて見直される座右の参考書——理科年表 53-2/12-2/130
9. Abbreviations Dictionary. 53-4/12-4/132
10. International Buisness Bibliography. 53-9/12-9/137
11. Oxford University Press Quincentenary. 53-10/12-10/138
12. アメリカの Dewey たち 54-2/13-2/142
13. The Book: The Story of Printing & Book-making. 54-4/13-4/144
14. The Encyclopaedia Sherlockiana. 54-10/13-10/150

15. 西洋挿絵の変遷 55-2/14-2/154
16. 「風船爆弾」の洋書 55-4/14-4/156
17. 中央アジア シルクロードの洋書を溯る(I) 55-10/14-10/162
18. " (2) 55-12/14-12/164
19. " (3) 56-2/15-2/166
20. " (4) 56-5/15-5/169
21. " (5)ヘディンの巻(I) 56-8/15-8/172
22. " (6) " (II) 57-8/16-8/184
23. " (7) 57-12/16-12/188
24. " (8) 58-2/17-2/190

その他

洋書あれこれ——八木さんを囲む座談会

- | | |
|-------------------|---------------|
| | 47-9/6-9/65 |
| " " (その2) | 47-10/6-10/66 |
| "JAPANOLOGY"——西と東 | 47-12/6-12/68 |
| 欧文「日本関係文献目録」その2 | 48-9/7-9/77 |
| " " その3 | 48-12/7-12/80 |
| " " その4 | 49-1/8-1/81 |
| " " その5 | 49-4/8-4/84 |
| " " その6 | 49-8/8-8/88 |
| " " その7 | 49-10/8-10/90 |

京都外語大付属図書館編「日本関係資料図録」を手にして (BOOK REVIEW No.16) 49-6/8-6/86

八木佐吉著「書物往来」(BOOK REVIEW No.34)

51-4/10-4/108

八木佐吉編著 Bookman's Glossary——書物語辞典 (BOOK REVIEW No.44) 52-7/11-7/123

チャールズ E・タトル商会元社長、
チャールズ E・タトル氏、日本政府より
勲三等瑞宝章を受章

タトル氏は、30年間にわたり英文出版による日本伝

統文化の海外紹介、翻訳出版権のあっ旋、書籍の輸出入を通ずる東西学術文献の交流などに多大の貢献をされましたため、昨秋頭記叙勲の榮に浴されました。

洋書輸入協会会員一同よりお喜び申し上げます。

おしらせ

株式会社アシェット・ジャポンの代表取締役社長に小野照男氏が本年1月就任されました。尚、小野氏は株式会社リージェンツ出版社の代表取締役も兼ねられます。

来日外人名簿

- 一月下旬 Mr. James H. Clark, Director,
Univ. of California Press, Berkeley
- " Mr. Herbert M. Johnson,
JAI Press Inc., Greenwich
- 二月上旬 Mr. David Terry, International Sales
Manager, Academic Press, Inc., Orlando
- " Mrs. Sara Finnegan, President, Book Div.,
Williams & Wilkins, Baltimore
- " Ms. Glynis Watts, Glynis Watts Inter-
national, London
- " Mr. Holubar, Marketing Manager,
Wadsworth Pub. Co. Inc., Belmont
- 二月中旬 Mr. Roger Gold, Manager, Asia,
Shortland Publications, Auckland
- " Mr. Andrew H. Neilly, Jr., President
- " Mr. J. Adrian E. Higham, Vice President,
John Wiley & Sons, Inc., New York
- " Mr. Earl Starkoff, Vice President,
C R C Press, Boca Raton
- " Mr. G. Stanley Kendrick, President,
Prentice-Hall International,
Englewood Cliffs

- " Mr. Ivan M.C.S. Elsmark, Chief,
Publications Marketing and Licensing
Sec., ILO, Geneva
- " Mr. Leslie Rayner, Managing Director,
Applied Science Pub. Ltd., Barking
- " Mr. John M. Cullen, Export Manager,
John Bartholomew & Son Ltd.,
Edinburgh

総代理店ご案内

- 梯紀伊國屋書店 ☎(03)354-0131(大代表)
ASLIB—The Association for Information Manage-
ment. (UK)All books
- 北尾書籍貿易梯 ☎(06)203-5961
Business Trend Analysts. (USA)
Air-Cargo only All Publications and Services
- 丸 善梯 ☎(03)272-7211
Dictionnaire des Littératures de Langue Francaise
sous la dir. de J.—p. de Beaumarchais et al. 3 Vols.
(Bordas, FRA)Until 31/5/84 ¥30,000
Thereafter ¥36,000
- Gray's Anatomy of the Human Body. 30th ed. '84
(Lea & F., USA).....ca. ¥19,200
- Katcher et al.— Applied Therapeutics: The clinical
use of drugs
(Applied Therapeutics, USA)¥19,800
- Thinkers of the Twentieth Century.
Ed. by E. Devine, M. Held and others
(Macmillan, GBR).....¥17,500
- Toole, J.F.—Cerebrovascular Disorders, 3rd ed. '84
(Raven Pr., USA)ca. ¥29,760

最新、唯一の フランス図書目録1984年版

LES LIVRES DISPONIBLES 1984 (FRENCH BOOKS IN PRINT)

Auteurs-Titres-Sujets (著者・書名・主題別)全3巻セット ￥179,000
Auteurs-Titres (著者・書名別)全2巻セット ￥126,000

- 現在、唯一のフランス図書目録。
- 56ヶ国のフランス語出版社7,329社からの出版情報を網羅。
- 215,641点の図書に関する情報収録。
- 1983年6月末日までの出版物の情報およびその価格を収録。
- 1984年版は書名別(Titres)、著者別(Auteurs)、主題別(Sujets)の全3巻に、約5,988頁におよぶ。
- 目録は、タイトル、副題、著者、編者、シリーズ名で容易に索引できる。
- 出版社、取次者、シリーズ名、巻数、出版年、頁数、形態、図版の有無、翻訳書の場合はその原書国語名、価格などの情報が記載されている。
- 図書館・書店・出版社、取次・輸入業者には必備のフランス図書目録です。

日本総代理店

三洋出版貿易株式会社

本社	〒103 東京都中央区日本橋茅場町1-11-8(紅萌ビル)	03 (669)3761
営業所	〒504 大阪市東区内平野町2の37(石井ビル)	06 (947)1150
	〒305 茨城県新治郡桜村天久保1-13-1(第2紅萌ビル)	0298(51)8091
	〒792 愛媛県新居浜市西原町1の3の18(昭和ビル)	0897(32)2530

昭和59年3月 通巻第203号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103	東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル 603号室	☎ 271-6901
☎ 530	関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル	☎ 371-5329